

厳しい寒さもようやく峠を越し、本格的な雪解けが待ち遠しい今日この頃、保護者の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より本校の教育活動及び進路指導への温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今年度最終号となる今回の「進路だより」では、昨年度の卒業生の「今」にスポットを当ててご紹介します。小学部の保護者アンケートでは、「将来のイメージがまだ持てない」「何から準備を始めればいいのか分からない」といった声を多くいただきました。お子様一人ひとりの歩む道は異なりますが、実際に卒業後の生活を送っている先輩の姿を知ること、少しでも将来のイメージを膨らませるきっかけにいただければ幸いです。



＜卒業生紹介：溝渕志保さん（令和6年度高等部卒業）＞

志保さんは現在、生活介護事業所に通いながら、実家を離れて、「一人暮らし」に挑戦しています。2月17日、高等部の授業「ようこそ先輩」に講師として来ていただきました。

＜卒業後の生活開始＞

高等部卒業後 4 月から札幌での一人暮らしを開始しました。本校では寄宿舎で生活していた志保さん。卒業後も平日は実家を離れて生活し、土日は実家に帰るというリズムで生活したいという希望がありました。高等部での懇談の中で、1年生の時には「まだ卒業後のことがイメージできない。でも志保のためにこれから進路についても勉強して家族で考えていきたい」とおっしゃっていたのがとても印象に残っています。2年生、3年生になるに従って、寄宿舎での生活に慣れてきた志保さん、その頃お母様から、「実家に帰ってから一人になりたいと言うようになり、志保も大人になってきている」ということをお話しされていました。2年生の後半では、グループホームで生活をしながら、生活介護事業所に通う方法を模索しました。グループホーム自体の数も少ないことから、なかなか生活する場所を見つけることができなかったのですが、アパートにヘルパーを入れて生活する方法を見つけて生活環境を整えることができました。

＜支援体制の変化と生活の安定＞

そんな志保さんですが、一人暮らし開始当初は、サポート環境との調整に苦慮し生活のリズムをつかむのが難しい時期もありました。その際、お母様は苫小牧から毎日札幌へ通い、生活が整うまで1ヶ月間、志保さんに寄り添いながら朝の送り出しを支えるという大変な日々を過ごされました。「親がいなくなっても自立して生活してほしい」という強い願いと、「本人の希望を叶えてあげたい」という思い、また「学校生活でいろいろなことを経験できたおかげで、一人暮らしもうまくいくことばかりではないだろうと覚悟していた」というお母様の言葉。その揺るぎない覚悟があったからこそ、現在は最適なサポート体制が整い、日々の生活の質も大きく向上しています。

＜健康状態の変化＞

夏には猛暑により体調を崩し、1ヶ月の入院を経験するという大きな試練もありました。しかし自立の過程における大切な学びとなりました。退院後は「食事・水分補給・睡眠」という自分との約束を守りながら、再び一人暮らしを継続しています。

<志保さんの卒業後の生活のまとめ>

今、志保さんは週末に実家に帰省しても「札幌に帰りたい」と訴えるほど、自分の居場所を確立されています。志保さんの進路決定から卒業後の生活が落ち着くまでの道のりは、決して平坦なものではありません。1年生の頃は進路に対して漠然とした不安や先が見えない時期から始まり、実習や施設見学、保護者同士のつながりの中で、情報を集め、家族会議を重ねてこられました。その積み重ねがあったからこそ、困難に直面しても「志保にこういう生活をさせたい」という明確なビジョンを見失わずに進むことができたのです。

<卒業後の「自分らしい暮らし」を見つけるために>

これまで小学部から高等部まで、お子様たちの進む道には、いろいろな迷いがあるものの、常に「次」の場所があります。しかし高等部卒業後の生活は、初めて「どこへ行くかの保障がどこにもない」という大きな局面を迎えます。これは不安なことかもしれません。でも見方を変えれば、「自分たちがどんな生活をしたいか」と思い描いた数だけ、未来の選択肢がある」ということでもあります。

進路は本人と保護者のものであり、本人保護者が卒業後「どのような生活を送りたいのか」ビジョンを持つことが最初の第一歩になります。ビジョンは最初から完成している必要はありません。日々の生活を送っていく中で、少しずつ作っていくものだと思います。私たち学校も皆さまの「卒業後の生活」を思い描くための手助けができるように、これからも共に歩んでいきたいと思っています。どうぞいつでもご相談ください。

「移行支援会議」について

「移行支援会議」とは、主に高等部卒業後の生活に移行するための橋渡しとなる大事な会議です。

ご本人やご家族の願いを実現するため、情報交換、支援内容の確認、支援について各機関の役割分担を確認していくことを目的としています。

また、利用に当たって、諸手続き、時間や準備物、送迎等について具体的な内容も確認します。

参加者については、ご本人、保護者の方、進路先、相談支援事業所、学校（担任、進路担当等）の他、必要に応じて、放課後等デイサービス、医療機関、訪問看護、居宅介護事業所等の方々に参加をしていただくことがあります。時期的には卒業式前後に行うことが多く、今年度は早い方では2月の後半頃から行い始めています。

進路に関わる学習



○高等部「ようこそ先輩！！」

2月18日（水）、1、2年生を対象に高等部の卒業生2名を迎えて、「ようこそ先輩」の学習を行いました。

<先輩たちの「今」>

事前学習では、先輩が実際に事業所で行っている作業を体験。「どんな生活をしているのだろう？」という期待と緊張を持って当日を迎えました。

<先輩たちのリアルな声>

当日生徒から多くの質問が出ました！先輩たちは、実体験を踏まえて丁寧に答えてくださいました。卒業してからわずか1年ですが、卒業時よりもずっと大人びて見えました。事業所での毎日の積み重ねが、今の自信に繋がっているのだと感じ、教職員一同もうれしい気持ちでいっぱいです。

<未来への一歩>

交流後、先輩への感謝の手紙を書きながら、自身の目標を再確認した生徒たち。卒業後の生活を「自分事」として捉える、素晴らしいきっかけとなりました。